

がんばろう日本

～亀岡市は平成28年(2016年)熊本地震被災地の復興を支援します～



編集発行: 亀岡市市長公室秘書広報課 / 〒621-8501 亀岡市安野野々神8番地 / ☎0771-22-3131(代) ☎0771-24-5501

ホームページ: <http://www.city.kameoka.kyoto.jp> 電子メール: office@city.kameoka.lg.jp フェイスブック: <http://www.facebook.com/kameokacity>

■亀岡市の人口と世帯数

	平成29年 6月21日現在	平成28年 6月22日現在
人口	90,008人	90,558人
内訳	男	43,846人
	女	44,119人
世帯数	46,162人	46,439人
	38,638世帯	38,416世帯

■主な内容

- 1ページ キーワードは"保津川"!! 3つの新市指定文化財のひみつ
- 2ページ ドローンによる災害現場の迅速な確認を!
- 3ページ 府内初! 東輝中学校が緑化コンクール特選受賞!
- 4ページ 遊・You・かめおが夏のイベント情報 など



文化財と聞くと、皆さんは何を思い浮かべますか。仏像や巻物などをイメージする人も多いでしょうが、それだけではありません。4月26日に、新しく亀岡市の指定文化財として金刀比羅神社の奉納船、桑田神社の石灯籠、保津川船下りの操船技術が指定されました。保津川の水運が結ぶ、3つの文化財の物語に迫ります。

キーワードは"保津川"!! 3つの新市指定文化財のひみつ



3人1組のチームワークで急流を切り抜けます
保津川船下り操船技術
ほづがわふなくだりそうせんぎじゅつ

船頭やらの技のひみつ
かつて丹波の産物を都に運ぶ役割を果たし、現代では遊船として多くの観光客を楽しませている保津川下り。嵯峨嵐山までの急流を進むには、棹・櫂・舵を操り、日々変わる風向きや水量を読み解く知

識と経験が必要。船頭歴19年になる豊田覚司さん(下矢田町)は「船頭はみな、『一人前の船頭』という表現は使いません。いくつになっても、日々、真剣に技術を磨き続け、安全な運航に努めています」と話されます。そして現在、400年にわたり受け継が



安全第一がモットー!
最新少船頭・畑中さん

れてきた操船技術の習得に励むのが、今年20歳の最新少船頭・畑中彰仁さん(曾我部町)です。船頭歴2年になる畑中さんは「高校時代、京都市内への通学途中に鉄橋から見た船下りの船頭に憧れ、この世界に飛び込みました。先輩から知識・技術をどんどん学んでいきたいです」と抱負を語られます。

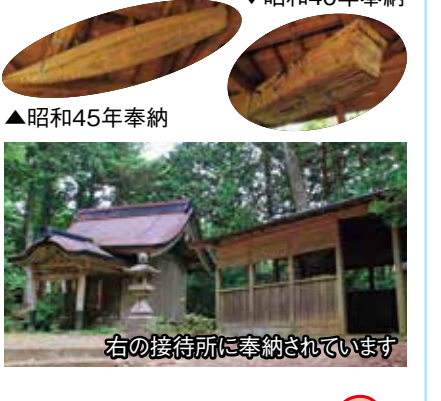
未来へ伝える～私たちと保津川～
私たちの生活とともにある保津川。
3つの文化財は、水運に携わった先人たちの努力と情熱を現在に伝えています。
新たな文化財指定をきっかけに、ふるさと亀岡の歴史と伝統を見つめ直すとともに、貴重な遺産として次世代に受け継いでいきましょう。



金刀比羅神社奉納船
ことひらじんじやほうのうせん

かつての木造船の形を伝えています
保津川下りの船頭たちの信仰を集めてきました。この模造船は、川への感謝と航行の無事を願い、昭和40年と45年に保津川遊船企業組合より奉納されたものです。今でも、毎年1月10日の金毘羅さんの日には遊船関係者の皆さんが登山し、安全を祈願しています。

ESUINペニシ船がゆるひみつ
牛松山ハイキングコースを登ると、頂上に金刀比羅神社が見えてきます。その本殿横に、指定文化財となった2隻の模造船があります。古くより、同社は、水上安全の守り神を祀ることから、



昭和40年奉納
昭和45年奉納
右の接待所に奉納されています



舟筏無難銘石灯籠
しゅうばつぶなんめいしとうろう

鳥居前にたたずむ灯籠
▲航行安全を祈る「舟筏無難」の文字

石の灯籠と保津川のひみつの関係
灯籠の左面に刻まれた「舟筏無難」の文字。これは、水難除けを意味しています。灯籠が建てられた桑田神社のある、篠田山本は保津峡谷の入り口に位置し、水運を

支えてきました。灯籠は文政3(1820)年、当時、集落に住んでいた筏問屋や筏師、船頭により、航行の無事を祈願して建てられたものです。現在、彼らの仕事場があった山本浜はラフティングを楽しむ人たちにぎわい、新たなかたちで保津川と人々を結びつけています。